

実体経済の動向

◇生産、出荷とも反動減

(生産——6か月ぶりの減少)

4月の鉱工業生産指数(速報、季節調整済み^(注)、前月比)は、-0.5%(船舶を除くと-0.6%)と6か月ぶりに減少した(前年同月比+5.2%)。

(注) 以下増減率は特に断わらない限り、前月比または前期比(物価を除き季節調整済み)。

4月の生産を財別にみると、一般資本財が増加したものの、他の財は資本財輸送機械をはじめ軒並み減少した。すなわち、資本財輸送機械は、小型自動車、普通自動車、バス、トラック等が減少したため、-7.4%と大幅な減少となり、建設財も、コンクリート管、コンクリートパイプ、道路用コンクリート製品等公共投資関連資材の減少を主因にかなりの減少となった。また、耐久消費財が小型自動車、軽自動車、二輪自動車、カメラ等の減少から、非耐久消費財が服類、メリヤス靴下、飲料等の減少から、それぞれ減少となり、生産財も、鉄鋼素製品、カラーテレビ用ブラウン

管、板紙、化学繊維等が増加した反面、鋼帯、鋳鍛品、非鉄地金、基礎薬品類等が減少したため、わずかながら減少した。一方、一般資本財は、発電機、圧縮機・送風機、化学機械、装軌式トラクタ(10t以上)等が減少したが、反面、ショベル系掘削機、ベルトコンベア、クロスバ交換機、電子計算機等が増加したため、+3.7%と9か月連続の増加。

(出荷——かなりの減少)

4月の出荷(速報)は前月著伸(+2.7%)のあと-2.1%(船舶を除くと-1.5%)と6か月ぶりに減少(前年同月比+4.4%)した。

4月の出荷を財別にみると、一般資本財が増加し、建設財も微増となったが、反面資本財輸送機械、耐久消費財、非耐久消費財、生産財が減少した。すなわち、資本財輸送機械が、船舶の著減や前月輸出急増をみた小型自動車、トラック等の減少を主因に-17.2%と大幅減少となり、また、耐久消費財は小型自動車、二輪車、カラーテレビ、ラジオ、カメラ等の減少を主因に、非耐久消費財は、カラーフィルム、家庭用合成洗剤、服類等の減少を主因にそれぞれ減少した。さらに、生産財も、鉄鋼素製品、ブリキ、亜鉛めっき鋼板、繊維

鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)

	52年				53年		
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	2月	3月	4月
鉱工業	115.3	115.1	116.8	120.2	119.4	121.9	121.3
指数							
前期(月)比	-0.1	-0.2	1.5	2.9	0.1	2.1	-0.5
前年同期(月)比	4.4	2.1	2.1	4.2	4.4	5.1	5.2
投資財	-1.3	0.5	2.4	3.4	-0.1	5.5	-1.1
資本財	-1.3	1.5	2.5	3.7	0.1	7.0	-0.2
同(輸送機械を除く)	-1.8	0.8	2.7	6.4	0.2	5.3	3.7
輸送機械	0.9	4.0	1.6	-5.1	-1.1	5.4	-7.4
建設財	-1.7	1.5	2.4	3.1	-0.2	1.9	-2.9
消費財	1.3	0.0	2.6	4.3	0.6	0.2	-1.5
耐久消費財	2.4	0.9	4.8	3.0	2.5	0.0	-0.5
非耐久消費財	1.0	-0.8	1.3	4.8	-0.6	-0.3	-1.4
生産財	-0.8	-0.7	0.4	2.0	-0.2	1.2	-0.1

(注) 1. 通産省調べ。53年4月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

鉱工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)

	52年				53年		
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	2月	3月	4月
鉱工業	113.9	113.9	115.8	119.6	118.6	121.8	119.2
指数							
前期(月)比	-1.0	0.0	1.7	3.3	0.1	2.7	-2.1
前年同期(月)比	3.5	1.9	2.9	4.2	4.0	6.3	4.4
投資財	-1.1	-1.2	4.0	4.1	-0.3	4.1	-2.2
資本財	-0.9	-1.0	4.3	5.3	-0.8	6.2	-3.6
同(輸送機械を除く)	0.2	0.3	4.8	4.1	-0.6	6.7	3.1
輸送機械	-2.3	-3.2	2.8	7.5	-0.4	8.0	-17.2
建設財	-2.0	-0.3	4.0	0.8	-0.6	0.0	0.1
消費財	-0.8	1.6	1.0	5.0	0.9	2.5	-4.6
耐久消費財	-0.5	2.6	3.7	4.0	-0.7	6.2	-6.7
非耐久消費財	-0.5	0.2	0.4	4.9	1.7	0.2	-2.9
生産財	-1.7	0.0	0.8	2.2	-0.3	1.6	-0.6

(注) 1. 通産省調べ。53年4月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

原料、プラスチック、板紙等が増加した反面、粗鋼、鋼板、鋼帯、非鉄地金、カラーテレビ用ブラウン管、硫酸等が減少したため、前月増加のあと再び減少した。一方、一般資本財は、土木建設機械、ポンプ、圧縮機・送風機等公共工事関連機材や化学機械、機械プレス等が前月著伸の反動から減少したが、反面、発電機、標準変圧器、電卓、複写機、クロスバ交換機、電子計算機等が増加したため前月に続き増加となり、また建設財も銅電線、普通鋼熱間鋼管、亜鉛めっき鋼板等が増加したため、わずかながら増加となった。

(在庫——微増)

4月の生産者製品在庫(速報)は、+0.3%と前2か月減少のあと3か月ぶりに増加(前年同月比-0.5%)となり同在庫率指数(50年=100)も86.8と6か月ぶりに上昇した。

財別にみると、一般資本財、資本財輸送機械、建設財、生産財が減少した反面、耐久消費財、非耐久消費財が増加した。すなわち、一般資本財では土木建設機械、金属加工機械、複写機、標準変圧器、通信機械等の減少から、資本財輸送機械もバス、トラック等の減少から、それぞれ減少した。また建設財も小形棒鋼、セメント、コンクリ

ート製品等が増加した反面、亜鉛めっき鋼板、銅電線、板ガラス等の減少から3か月連続の減少となり、生産財も、粗鋼、ブリキ、アルミ圧延品、無機薬品、板紙等が増加した反面、銑鉄、フェロアロイ、電気銅、通信・電子部品、鉛電池、繊維原料、パルプ等が減少したため3か月連続の減少をみた。一方、耐久消費財は、洗たく機、冷蔵庫、カラーテレビ、小型自動車等が減少した反面、電卓(13けた以下)、エアコン、ステレオ、二輪車等が増加したことから、また非耐久消費財もカラーフィルム、家庭用合成洗剤、服類等の増加からそれぞれ増加した。

(設備投資——機械受注はかなりの減少)

4月の一般資本財出荷(速報)は、前月大幅増加(+6.7%)のあと+3.1%と2か月連続の増加となった。

これを品目別にみると、土木建設機械、ポンプ、圧縮機・送風機等が減少したが、反面、電力の設備投資増を映じて産業用電気機械、発電機が増加し、さらに事務用機械、通信機械、電子計算機等も増加した。

4月の機械受注額は船舶を除く民需で-23.4%(前年同月比-4.4%)、船舶・電力を除く民需でも-7.3%(同+2.4%)と前月期末要因もあって著伸したあとそれぞれ5か月ぶりに減少した。

業種別にみると、製造業からの受注は、窯業が増加した以外は鉄鋼、機械、自動車、石油等が前

鉱工業製品在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減(-)率・%)

	52年(期末)			53年(期末)	53年		
	6月	9月	12月	3月	2月	3月	4月
鉱工業指数	106.1	105.4	105.7	103.4	105.3	103.4	103.7
前期(月)末比	3.5	-0.7	0.3	-2.2	-1.2	-1.8	0.3
前年同期(月)末比	9.3	6.4	3.0	0.9	2.3	0.9	-0.5
投資財	1.7	-1.8	-1.4	-4.0	-3.8	-2.3	-2.0
資本財	2.0	-0.1	0.9	-5.4	-5.7	-3.3	-2.3
同(輸送機械を除く)	1.8	-1.0	-2.1	-3.2	-3.8	-2.1	-4.3
輸送機械	0.8	2.4	5.5	-7.5	-8.4	-3.8	-0.2
建設財	0.9	-3.6	-5.0	-1.6	-1.6	-0.9	-1.1
消費財	5.7	-1.3	3.0	-2.1	-0.4	-3.4	3.9
耐久消費財	6.0	-3.3	1.7	1.8	2.2	-1.8	2.8
非耐久消費財	5.8	0.3	2.6	-4.2	-1.4	-3.3	4.1
生産財	2.9	0.8	-1.0	-1.3	-1.2	-0.4	-1.1

(注) 1. 通産省調べ。53年4月は速報。
2. 前年同期(月)末比は原指数による。

需要先別機械受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	52年		53年	53年		
	7~9月	10~12月	1~3月	2月	3月	4月
民需	2,446	2,371	3,069	2,803	3,756	2,713
同(船舶を除く)	(-8.7)	(-3.0)	(29.4)	(5.9)	(34.0)	(-27.8)
製造業	2,337	2,375	2,892	2,619	3,508	2,687
同(船舶を除く)	(-6.8)	(1.6)	(21.8)	(2.7)	(34.0)	(-23.4)
非製造業	966	888	1,119	1,014	1,341	1,014
同(船舶を除く)	(-6.2)	(-8.1)	(26.0)	(1.3)	(32.2)	(-24.4)
同(船舶を除く)	1,429	1,520	1,741	1,542	2,117	1,618
同(船舶を除く)	(-4.4)	(6.3)	(14.5)	(-1.4)	(37.3)	(-23.6)

(注) 経済企画庁調べ。カッコ内は前期(月)比増減(-)率(%)。

月著伸の反動から軒並み減少したため-24.4% (前年同月比-8.8%)と5ヵ月ぶりの減少となった。また、非製造業(船舶を除く)からの受注も、電力が前月著伸の反動からかなりの減少をみたほか、運輸、建設等も減少したため、前月大幅増加(+37.3%)のあと-23.6%(前年同月比-5.4%)と再び減少。

この間、官公需は防衛庁が減少したものの、反面、国鉄、電電の発注増から運輸、通信が増加したため+17.6%(前年同月比+44.8%)と3ヵ月ぶりに増加した。

◇4月の小売商況は引続き持直し

4月の全国百貨店売上高(速報)は+0.7%と前2ヵ月(2月+1.3%、3月+1.6%)に比べれば伸び率は低下したものの、引続き持直し傾向を示し

た。

品目別にみると身の回り品、家庭用品が伸び悩んだものの、衣料品が婦人衣料を中心に幾分伸びを高めたとほか、雑貨、食料品も堅調な売行きを続けた。

一方、5月の乗用車新車登録台数(軽を除く)は前月反落(-3.7%)のあと再び+8.6%と大幅増加となり、前年同月比では+22.5%と50年7月(+34.8%)以来の伸びを示した。これは、昨夏以来の新型車の発売や下取り価格引上げなどメーカー側の内需拡大努力が続けられる一方、小型乗用車を中心に買い替え需要が伸長しているためとみられる。

◇商況の基調——総じて強保合い

5月の商品市況をみると、か性ソーダ、ガソリ

卸売物価指数の推移

(単位・%)

ウエイト	52年		53年		53年				
	10~12月平均	1~3月平均	3月	4月	5月	上旬	中旬	下旬	
総平均	1,000.0	-0.7	-0.6	-0.1	-0.4	0.3	0.2	0	0.1
食料品	140.9	0.2	-0.6	0	-0.1	0.5	0.7	-0.3	0
非食料農林産物	18.9	-5.0	1.6	0.5	-1.7	-0.3	0	0.1	0.4
繊維製品	62.9	-0.3	1.7	1.2	0.4	0.5	0.3	0	-0.1
製材・木製品	33.6	-1.1	-1.5	0.5	-0.2	-0.2	-0.1	-0.1	-0.3
パルプ・紙・同製品	28.9	-0.6	-2.8	-1.4	-1.0	-0.3	-0.1	0	-0.4
金属素材	12.6	-6.7	2.6	0.2	-4.2	0.8	-0.6	1.0	1.1
鉄鋼	80.7	-0.1	1.2	0.8	0.4	0.9	0.3	0.3	0.3
非鉄金属	26.1	-2.1	-1.1	-1.1	-1.5	0.2	0	0.4	0.5
金属製品	37.0	0.5	1.1	0.7	0.5	0.5	0.3	0.1	0
電気機器	73.3	-0.8	-0.4	-0.1	-0.7	-0.1	-0.1	0	0.1
輸送用機器	74.0	-0.1	-0.1	-0.3	0	0.5	0	0.1	0.1
一般・精密機器	95.7	-0.3	0.1	-0.1	-0.1	0.3	0.2	0	0
化学製品	91.1	-1.0	-2.2	-0.7	-0.3	-0.4	-0.2	-0.1	-0.2
石油・石炭・同製品	102.2	-2.9	-3.0	-2.1	-2.8	0.3	0.1	0.1	-0.2
窯業製品	30.5	2.8	1.3	0.9	0.9	0.2	0	0.1	0.2
電力・ガス	25.5	-0.1	-0.6	-0.2	-0.3	-0.2	0.1	-0.1	0
雑品目	66.1	-0.6	-1.2	0.5	0.7	0.4	0.1	-0.1	0
工業製品	816.4	-0.5	-0.5	-0.1	-0.1	0.3	0.2	0.1	-0.1
大企業性製品	579.9	-0.6	-0.6	-0.2	-0.2	0.4	0.2	0	0
中小企業性製品	214.6	0.4	0.1	0.4	0.2	0.1	0.2	0	-0.2
非工業製品	158.1	-2.0	-1.1	-0.4	-1.6	0.3	0.1	-0.2	0.3

(注) 日本銀行調べ。

ン、C重油などが軟調を続けたほか、棒鋼、綿糸も小幅軟化となったが、各種鋼板類が大幅に上伸し、セメント、砂糖、生糸、合繊短繊維糸も堅調、非鉄(銅、鉛)、紙(上質紙)、毛糸は下げ止りあるいは反発を示すなど、総じてみると市況は強保合いに推移した。

これは、実需の低調(か性ソーダ、C重油等)、季節的な官公需の一眼(棒鋼、塩ビ)、需要最盛期明け(綿糸)などから軟化を示す品目がみられたものの、①大方の品目ではメーカーの供給抑制姿勢は大勢維持されており(鋼板類、上質紙、合繊短繊維糸、毛糸)、それをながめての高唱え(鋼板類)や安値は正感(上質紙、毛糸)も一部に聞かれるほか、②需要面でも自動車、家電、重電、建設機械等の資材手当て増(鋼板類、銅、鉛、アルミ)や一部季節的需要増(合繊短繊維糸)がみられたことなどによるものである。このほか当月は、③円相場安や海外相場の高騰(銅、鉛)も一部市況押上げ要因となった。

(卸売物価—反騰)

5月の卸売物価は、+0.3%と前月大幅下落(-0.4%)のあと反騰した(前年同月比では-2.0%)。

品目別には、製材・木製品、化学製品等が需要不振等から統落したものの、鉄鋼、繊維製品が供給抑制等を背景に統騰したほか、石油・石炭・同製品(原油、原料炭)、金属素材(鉄鉱石)、非鉄金属(金地金、銅地金)が為替円安あるいは海外相場高の影響から上昇に転じ、食料品も酒税引上げに伴う酒類の値上りもあって微騰を示した。

(消費者物価—5月<東京都区部、速報>は上昇)

5月の消費者物価<東京都区部、速報>は、総合で+0.7%の上昇となった。

これは、生鮮魚介が値下りし、雑費もガソリン等の下落から低い伸びにとどまったものの、被服が夏物衣料への品目入れ替えからかなり上昇したほか、果物、酒類を中心に嗜好食品が値上りしたためである。

消費者物価指数の推移

(単位・%)

	ウェイト	52年	53年	53年			最近月の前年同月比	
		10~12月平均	1~3月平均	3月	4月	5月		
東京	総合	100.0	0.8	0.9	0.9	1.2	* 0.7	* 4.3
	季節商品を除く総合	91.9	1.4	0.4	0.5	1.1	0.7	4.6
	(季節商品)	(8.1)	(- 5.8)	(6.2)	(5.9)	(2.8)	(* 1.6)	(* 1.3)
	食料	40.1	0.3	1.6	1.4	0.7	* 0.7	* 4.1
	住居	11.1	1.0	0.5	- 0.2	0.9	0.8	4.1
	光熱	4.2	0	- 0.2	0	0	0	- 0.2
	被服雑費	12.4	5.1	- 2.0	1.5	0.9	2.1	5.2
	32.2	0.2	1.3	0.3	2.1	0.4	4.9	
全国	総合	100.0	0.8	0.4	0.9	1.1	...	3.9
	季節商品を除く総合	91.7	1.3	0.3	0.4	0.9	...	4.6
	(季節商品)	(8.3)	(- 4.2)	(2.8)	(6.0)	(2.5)	(...)	(- 2.5)
	農水畜産物	16.3	- 0.8	1.0	3.6	0.7	...	0.2
	工業製品	46.6	1.6	- 0.6	0.4	0.4	...	3.3
	うち大企業性製品	21.4	0.4	0	- 0.1	- 0.1	...	0.7
	中小企業性製品	25.2	2.5	- 0.9	0.8	0.8	...	5.2
サービス	33.6	0.6	1.2	0.2	2.1	...	6.4	

(注) 1. 総理府統計局調べ。
2. *は速報。

もっとも前年同月上昇率では+4.3%と47年10月(同+3.8%)以来の低い上昇にとどまっている。

◇経常収支黒字幅を縮小

4月の国際収支は、輸出の減少から貿易収支、経常収支が黒字幅を縮小したうえ資本収支面で短期資本収支が小幅な流入超にとどまった一方、長期資本収支が、大幅流出超となったため総合収支の黒字は、229百万ドルと前月に比べ大幅に縮小した(前月は3,139百万ドルの黒字)。

経常収支は、貿易外、移転収支とも前月比赤字幅を縮小したものの貿易収支の黒字が大幅に縮小したため収支じりは、1,740百万ドルの黒字と

国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	52 年		53 年	53 年			前年 4 月
	7～9 月	10～12 月	1～3 月	2 月	3 月	4 月	
経 常 収 支	3,261	4,581	4,005	1,801	2,427	1,740	1,226
貿易 収 支	4,717	6,011	5,843	2,337	3,131	2,274	1,766
輸 出	20,197	22,243	21,464	7,252	8,632	7,704	6,763
輸 入	15,480	16,232	15,621	4,915	5,501	5,430	4,997
貿易 外 収 支	△ 1,373	△ 1,360	△ 1,721	△ 519	△ 643	△ 489	△ 521
移 転 収 支	△ 83	△ 70	△ 117	△ 17	△ 61	△ 45	△ 19
長期 資 本 収 支	△ 1,077	△ 1,176	324	162	211	△ 1,104	△ 399
本 邦 資 本	△ 1,218	△ 2,081	△ 2,781	△ 976	△ 1,172	△ 1,309	△ 391
外 国 資 本	141	905	3,105	1,138	1,383	205	△ 8
基礎 的 収 支	2,184	3,405	4,329	1,963	2,638	636	827
	(1,846)	(2,167)	(5,853)	(2,079)	(2,261)	(166)	(554)
短期 資 本 収 支	△ 452	129	213	△ 129	414	14	△ 527
誤 差 脱 漏	8	479	402	179	87	△ 421	59
総 合 収 支	1,740	4,013	4,944	2,013	3,139	229	359
金融 勘 定	1,740	4,013	4,944	2,013	3,139	229	359
外 貨 準 備 増 減	480	4,980	6,360	812	5,021	△ 1,682	320
そ の 他	1,260	△ 967	△ 1,416	1,201	△ 1,882	1,911	39
外 貨 準 備 高	17,868	22,848	29,208	24,187	29,208	27,526	17,317
為 銀 対 外 ポ ジ シ ョ ン	△ 11,731	△ 12,408	△ 14,560	△ 12,673	△ 14,560	△ 12,667	△ 14,008

- (注) 1. 基礎収支カッコ内は、貿易収支のみ季節調整した計数。
 2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。
 3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支ベース			通 関		輸 出	輸 出	輸入承認・
	輸 出	輸 入	貿易じり	輸 出	輸 入	信用状	認 証	届 出
52 年 7～9 月	6,678 (+ 3.5)	5,218 (+ 2.6)	1,460	6,789 (+ 3.8)	5,916 (+ 1.1)	4,790 (+ 5.9)	7,240 (+ 3.6)	5,741 (- 1.0)
10～12 月	6,903 (+ 3.4)	5,312 (+ 1.8)	1,591	7,058 (+ 4.0)	5,959 (+ 0.7)	4,983 (+ 4.0)	7,547 (+ 4.2)	6,005 (+ 4.6)
53 年 1～3 月	7,780 (+ 12.7)	5,324 (+ 0.2)	2,456	7,839 (+ 11.1)	6,171 (+ 3.6)	5,279 (+ 5.9)	8,078 (+ 7.0)	6,054 (+ 0.8)
53 年 1 月	7,540 (+ 8.4)	5,380 (+ 0.7)	2,160	7,565 (+ 5.5)	6,231 (+ 2.6)	5,026 (+ 2.3)	8,172 (+ 6.4)	5,734 (- 5.2)
2 月	7,884 (+ 4.6)	5,431 (+ 0.9)	2,453	8,035 (+ 6.2)	6,290 (+ 0.9)	5,156 (+ 2.6)	8,000 (- 2.1)	6,309 (+ 10.0)
3 月	7,916 (+ 0.4)	5,162 (- 5.0)	2,754	7,916 (- 1.5)	5,991 (- 4.7)	5,655 (+ 9.7)	8,062 (+ 0.8)	6,118 (- 3.0)
4 月	7,448 (- 5.9)	5,644 (+ 9.3)	1,804	7,646 (- 3.4)	6,349 (+ 6.0)	5,368 (- 5.1)	7,783 (- 3.5)	6,591 (+ 7.7)

- (注) 1. 四半期計数は月平均。
 2. カッコ内は対前期(月)比増減(-)率(%)。
 3. 輸出信用状接受額および輸入承認・届出額は、特殊大口を除く。

前月(既往最高の黒字2,427百万ドル)に比べ黒字幅をかなり縮小した。

長期資本収支は、外国資本が対日債券投資の著減から小幅な流入超(205百万ドル)にとどまったうえ本邦資本が、対世銀円資金貸付や円建外債の発行増等から既往最高の流出超(△1,309百万ドル)となったため収支じりでは、1,104百万ドルと既往第2位の流出超(既往最高は48/12月1,235百万ドルの流出超)となった。

一方、短期資本収支は、輸出前受金やBCユーザンスの受取減少から14百万ドルの小幅流入超となった。なお4月の貿易収支を季節調整済み計数でみると輸入(5,644百万ドル)は、製品類、原燃料、食品等を中心に増加(+9.3%)した一方、輸出(7,448百万ドル)が、船舶の落込みや1～3月にみられた船積み急ぎの反動等から減少(-5.9%)したため、黒字幅は1,804百万ドルと前月(既往最高の黒字2,754百万ドル)比大きく縮小した。

この間、外貨準備高は、5月中1,682百万ドル減少し月末残高は、27,526百万ドルとなった。

(輸出——減少)

4月の輸出(国際収支ベース)は、前月比-5.9

%と、4か月ぶりに減少となった(原計数の前年同月比では+13.9%の増加)。

品目別(通関ベース)にみると鉄鋼(中国向け船積み増加)、二輪自動車、科学光学機器、繊維製品、食料品等が増加した一方、船舶、自動車、重電機器、化学肥料等が減少した。

地域別には、西欧、東南アジア、中南米、アフリカ向けが増加した反面、米国、オセアニア、共産圏向けが減少した。

輸出信用状接受高(季節調整済み前月比)は、4月-5.1%のあと5月も-0.9%と減少した。

(輸入——大幅増加)

4月の輸入(国際収支ベース)は、前月比+9.3%とかなりの増加となった(原計数の前年同月比では、+8.7%の増加)。

品目別(通関ベース)にみると砂糖(原糖売戻し特例法実施による輸入減)、肉類、石炭、非鉄鉱等が減少した一方、原油、大豆、木材、繊維原料(在庫補充)、化学製品、機械機器等が増加した。

輸入承認届出額(特殊大口除外)は、4月+7.7%のあと5月は、-3.3%と減少した。